

## 焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

### <噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

焼岳では、本日（25日）02時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。また、傾斜変動観測では、本日（25日）01時頃から山頂方向上がりの変動がみられています。

このため、本日（25日）05時50分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げました。

#### 防災上の警戒事項等：

想定火口域から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

### ○ 活動概況

#### ・地震の発生状況（図2、図3、図5）

本日（25日）02時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。火山性地震の日回数は、本日（25日）06時までに50回（速報値）です。

火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図4～6）

傾斜変動観測では、本日（25日）01時頃から山体浅部の膨張を示唆する山頂方向上がりの変動がみられています。

GNSS連続観測では、一部の基線で山頂付近の緩やかな膨張を示すと考えられる変化が継続しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

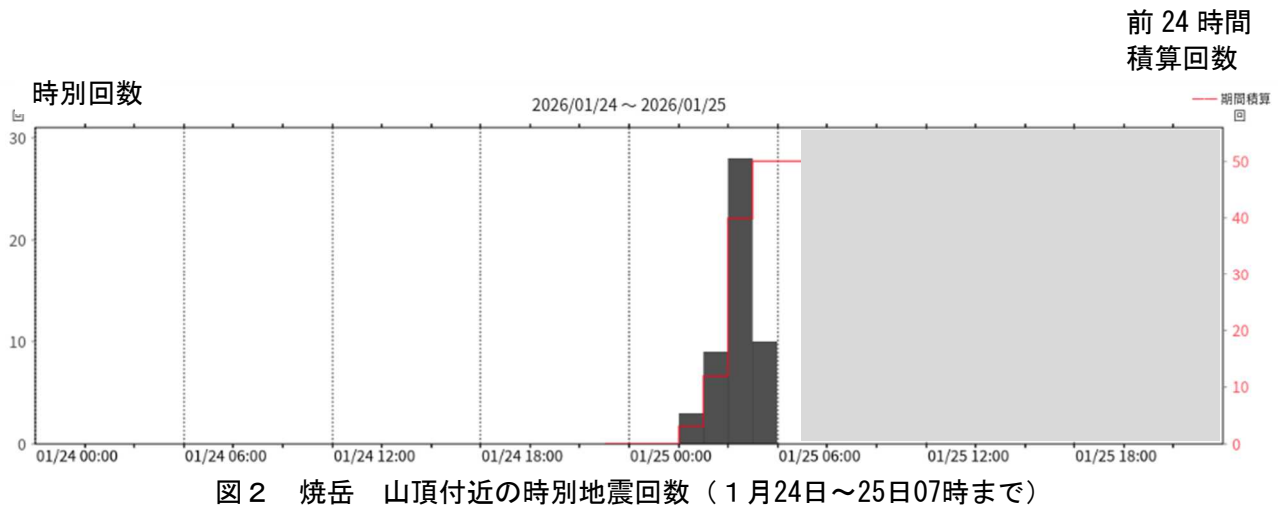
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。



図1 焼岳 噴火警戒レベル2に対応した警戒が必要な範囲（黄破線内）



- ・本日（25日）02時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。火山性地震の日回数は、本日（25日）06時までに50回（速報値）です。
- ・火山性微動は観測されていません。

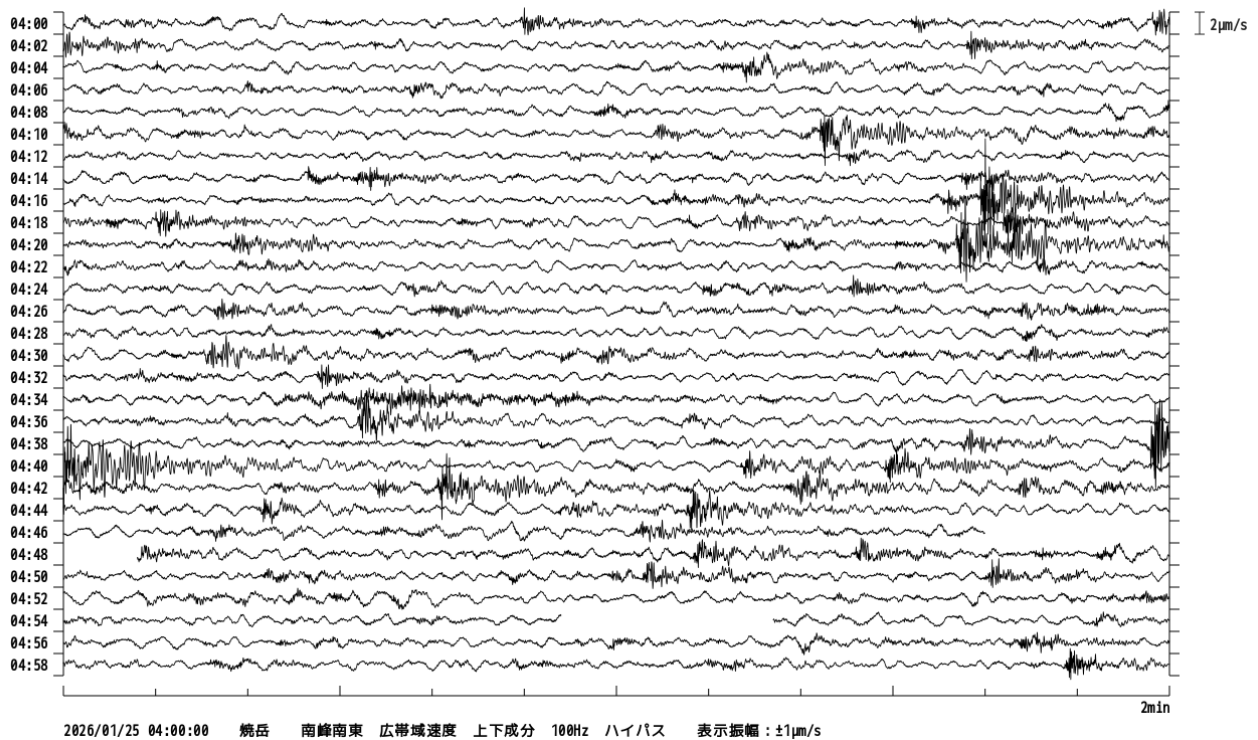


図3 焼岳 本日（25日）04時台に観測された火山性地震

南峰南東観測点の広帯域地震計で観測された上下動の速度波形を示しています。

- ・本日（25日）02時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。



焼岳・乗鞍岳（分値）

2026/01/18 07:22～2026/01/25 07:22

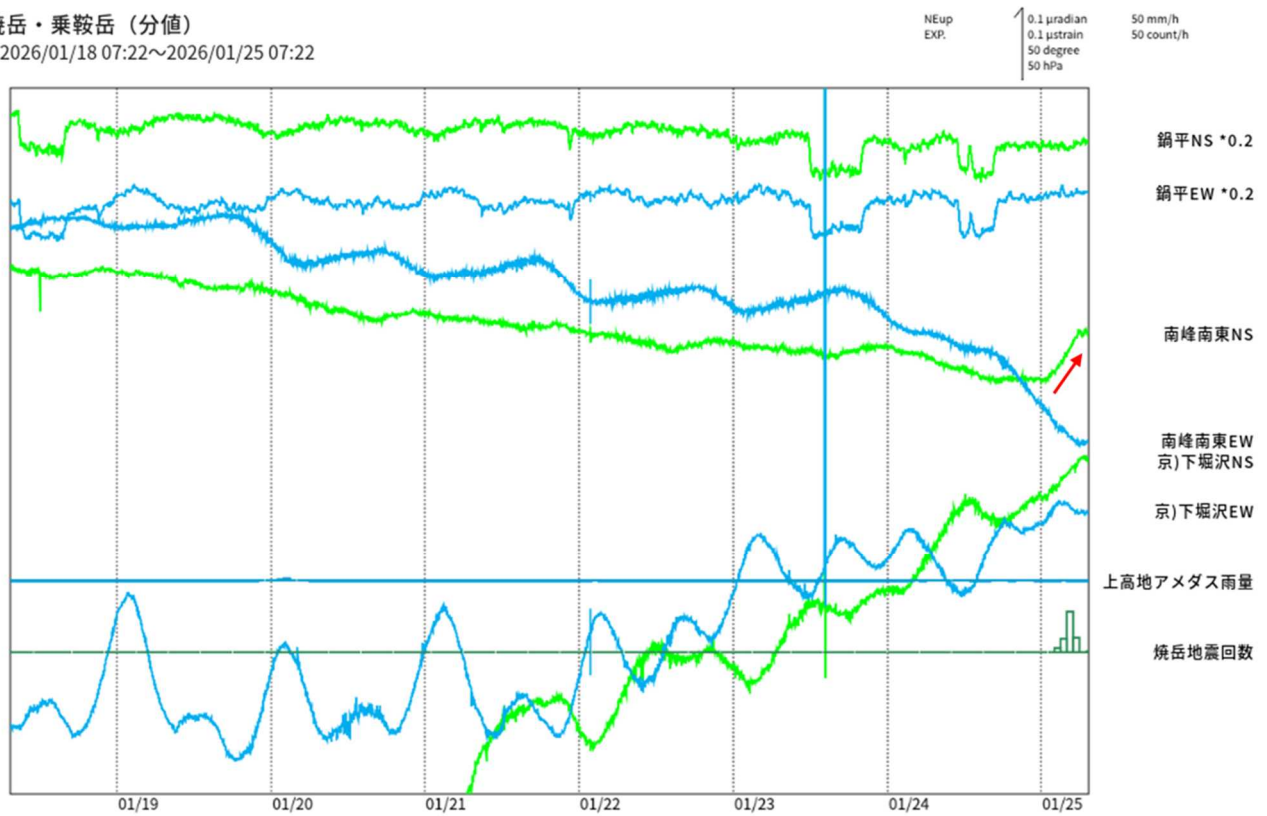


図4 焼岳 傾斜計観測（2026年1月18日～1月25日）

分値データを使用しています。（京）：京都大学

- ・傾斜変動観測では、本日（25日）01時頃から山体浅部の膨張を示唆する山頂方向上がりの変動がみられています（赤矢印）。

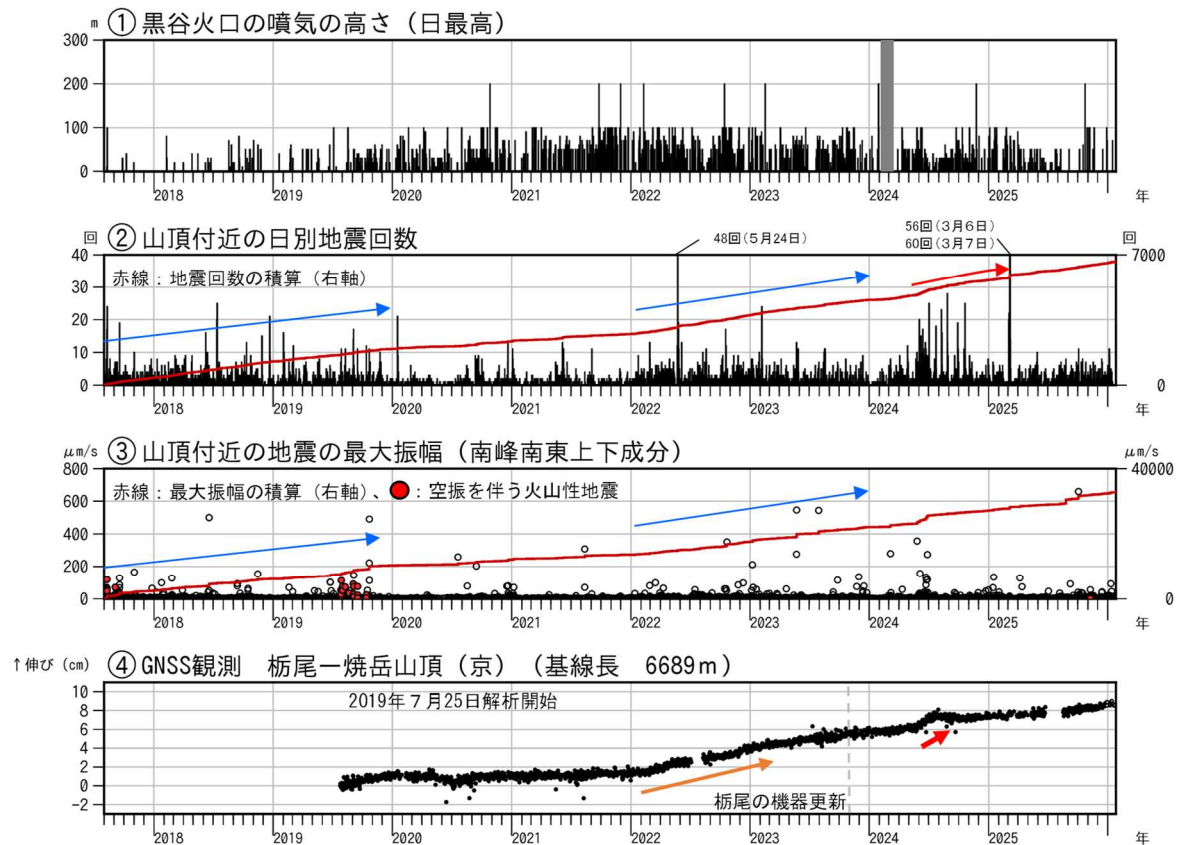
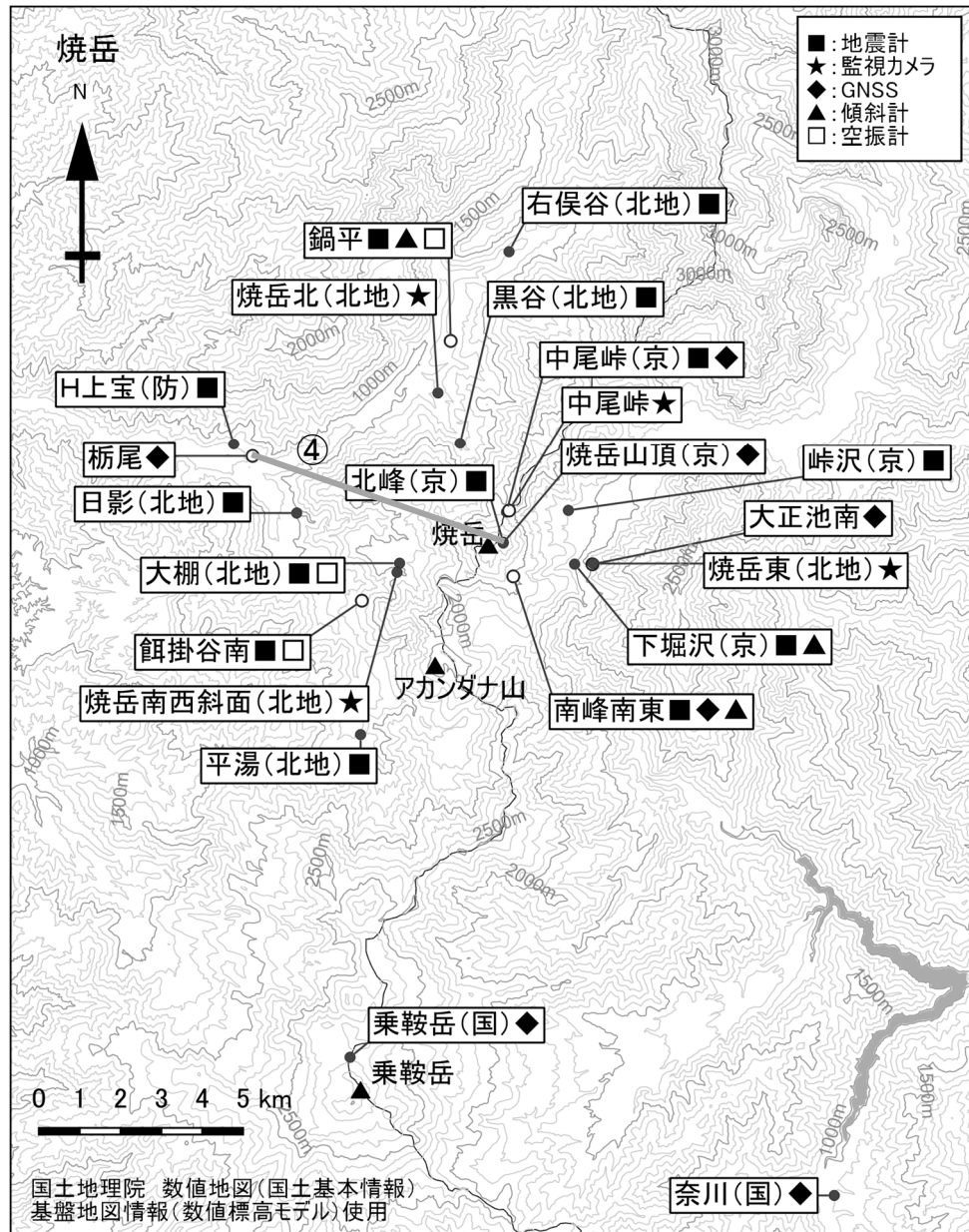


図5 焼岳 火山活動経過図 (2017年8月1日～2026年1月25日)

図6のGNSS基線に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。(国)は国土地理院、(京)は京都大学の観測点  
山頂付近の地震とは、南峰南東観測点の上下動振幅  $1.0 \mu\text{m/s}$  以上、S-P 時間 1.0 秒以内で、焼岳山頂付近の概ね  
海拔 0 km 以浅が震源と推定される地震のことです。

①灰色の期間 (2024年2月5日～3月14日) は欠測を示します。

- ・黒谷火口では、2019年夏頃から噴気を観測する日が増えています。
- ・山頂付近の微小な地震 (焼岳山頂付近の概ね海拔 0 km 以浅が震源と推定される地震) が継続しています (②)。
- ・2022年1月頃から2023年末まで、山頂付近の地震回数に増加傾向がみられましたが、2017年8月から2019年末の期間にみられた地震活動 (積算曲線の勾配) とほぼ同程度です (②③青矢印)。2024年5月下旬から2025年3月上旬にかけて、時々短期的な増加がみられました (②赤矢印)。
- ・山頂付近の緩やかな膨張を示すと考えられる伸びの変化が継続しています (④)。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(北地): 北陸地方整備局、(京): 京都大学

図6 焼岳 観測点配置図

○は気象庁、●は気象庁以外の機関の観測点を示しています。④は図5のGNSS基線④に対応。  
(国): 国土地理院、(防): 防災科学技術研究所、(京): 京都大学、(北地): 北陸地方整備局